

組織部速報

2022年3月1日
No.38

2022 J R 総連春闘 第2回交渉（要求の根拠）を行う！

中央本部は本日、第2回交渉を行ない、要求の根拠について主張しました。

- ・オミクロン株の流行により、現業機関では要員が逼迫する中、また、相次ぐ自然災害による輸送障害が発生する状況にあっても、指定公共機関としての社会的責任を果たすべく、必死に業務を担ってきた組合員の努力に報いるべきである。
- ・昨年10月以降、生活に必要な食料品・電気・ガスなどが値上がりし、さらに原油価格の高騰もあって生活は逼迫している。
- ・現場の最前線を担い、社員の7割以上を占めるプロフェッショナル職群の賃金水準は低く、若年退職が後を絶たない。また、各企業が求人に力を入れる中で「選択される会社」とならなければ、新たな人材も見込めず、会社は成り立たなくなってしまう。
- ・春闘は来年度の賃金を決めるものであり、黒字の事業計画を立てるのであれば、支払能力はあると考える。また、事業計画が独り歩きしている印象を受ける。「一丸となって計画達成をめざす」というのであれば、それを担う社員・組合員の賃金を上げてモチベーションを向上させるべきである。

貨物労組の主張に対して会社は、「コロナ禍で収入確保に奮闘する社員の頑張りには会社としても認識しているが、減収が拡大しており苦しい状況である。本日の要求の根拠を真摯に受け止め、次回会社としての考え方を示す。」と現時点の考え方を示しました。

「闘争ゾーン」突入！職場集会や総対話行動を展開しよう！